【政治・経済】

～ClassPad.net のファイルふせん・グラフ機能を活用する～

年金制度について考える授業

2050 年の年金バランスについて考える。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：年金制度における「給付と負担」のトレードオフの関係を、デジタルツールによって可視化し、持続可能な社会保障の在り方を考察させる。

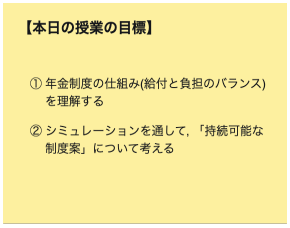
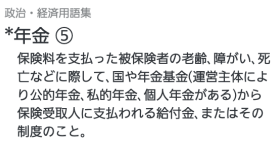
生徒向けの目標：年金制度の仕組み（給付と負担のバランス）を理解し、シミュレーションを通して「持続可能な制度案」を論理的に説明できるようにする。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

・**授業準備の時短／効率化**：板書内容や宿題をすべてデジタルノート上に用意できるため、授業準備も進行も効率化できる。

・**生徒の理解促進**：ファイルふせんやリンクふせんを活用して各種資料を表示することで、ビジュアル的に理解を促すことが可能になる。

・**協働学習促進**：同時編集機能や授業支援機能を活用することで、生徒によるグループワークを効果的にサポートできる。

授業の流れ	ClassPad.net での操作
step1  **概要の説明** 学習目標をスクリーンに提示し、これまでの学習内容と本時の課題を接続する。また、年金制度における基本的な財政の仕組みを理解したあと、ClassPad.net の機能を用いて具体的な制度変更をグラフ上に適切に表現し、そのグラフから将来の収支バランスや生活への影響を適切に読み取れるという目標も説明する。	
step2  **基本的な事項の確認** 年金制度の構造的な問題を理解するための共通言語を確認する。教員は、重要語句(賦課方式、積立方式など)を穴埋めにしたデジタルノートを配信し、生徒は各自で確認する。同時に、現在の日本における賦課方式の良い点と悪い点について確認する。	教師はあらかじめ作成しておいた、重要語句を穴埋め形式にしたテキストふせんを、授業支援機能の「送る」ボタンを使って生徒全員の端末へ一斉に配信する。生徒は賦課方式や世代間扶養といったキーワードの復習を個々に行う。また、EX-word ふせんを使用して、用語の解説もあわせて行う。 ※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。

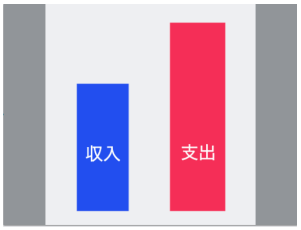
step3

【個人ワーク】

〈「財政赤字」を解消するアイデアを考えよう〉
(1) 次の画像の状況を読み取る

(2) 左右の棒の長さを揃えるために図形を操作
例：低い棒の上に「増税」ブロックを書き足す
例：高い棒の上部をバツ印で消す

(3)その操作をおこなった理由をふせんに
記入し，図の横に貼り付ける



個人ワーク

教師は課題内容を提示し、まずは各自で課題に取り組む。
〈活動内容〉
「財政赤字」を視覚的に解消するアイデアを考える。
①教員は「左の棒（収入）が低く、右の棒（支出）が高いグラフ（＝赤字状態）」の画像を生徒に配信する。
②生徒は、左右の棒の高さを揃えるために、ClassPad.net の描画ツールを使って図形を操作する。
例：低い棒の上に「増税」ブロックを書き足す。
例：高い棒の上部をバツ印で消す（給付カット）。
③：その操作を行った理由（を「ふせん」に記入し、図の横に貼り付ける。

教師は、Excel 等で作成した「収入と支出のバランスが崩れたグラフ（赤字状態の雛形）」の画像をファイルふせんとして用意し、これを生徒に送信する。生徒は ClassPad.net の「手書き機能」を利用して、①で配信した画像の上に②の内容を直接書き込む。さらに、その理由や意図を記述したテキストふせんを作成し、グラフの横に配置する。

step4

【グループワーク①】

Step3で作成した案をグループで共有しよう
・時間は５分間

・多くの人のアイデアを見ること

・この段階では議論や批判はおこなわず，
クラスメイトの多様な発想を観察しよう

グループワーク①

step3 で各人が作成したグラフを、今度は各グループ員同士で共有し多様なアプローチがあることを知る。
この段階では議論や批判は行わず、クラスメートの多様な発想（図の書き方の違い）を観察することに徹する。

ClassPad.net の画面共有機能を用いて、各自が作成した図をグループ内で共有する。

step5

【グループワーク②】
それぞれのアイデアについて意見を書こう
・クラスメイトの視点を取り入れて，
アイデアの現実性を検証しよう

・良い点には「赤いふせん」，
懸念点，気になった点は「青いふせん」を
用いて相手のノートにコメントしよう

・**もらったコメントを参考に自分のアイデアを**
ブラッシュアップしよう

グループワーク②

他者の視点を取り入れ、案の現実性を検証する。その指摘を受けて、生徒は自分の図をより現実的なものに修正する。

互いの案に対して良い点には「赤いふせん」、懸念点には「青いふせん」を用いて相手のノートにコメントする。

step6

【提出・発表】

・クラスメイトのコメントを反映したアイデア
を提出箱から提出しよう

・提出された案の中から数名指名します
→指名された人は「何を一番大切にして
(何を守りたくて)このバランスにしたか」
を発表しよう

代表者による発表

修正した最終案を「提出箱」に提出する。
教師は提出物の中から「現役世代の負担増で解決した案」「高齢者の給付減で解決した案」「支給開始年齢引き上げ等のミックス案」など、傾向の異なる３つを選び、電子黒板に並べて表示する。
代表生徒は、「何を一番大切にして（何を守りたくて）このバランスにしたか」を発表する。

step7

【まとめ】

少子高齢化を背景に，現在の年金制度の維持に対する不安は広がっている。また，年金保険料の未納率も上昇している。

日本の年金制度は世代間扶養の観点から，賦課方式を基本にしている。

しかし，負担の公平化をはかりながら，だれもが安心して老後を迎えられるような仕組みをととのえることが求められている。

【宿題】

授業の前後で年金制度に対する考え方は，どのように変化した？　振り返ってみよう

(テキストふせんに記入し提出箱から提出)

まとめ・宿題

学習内容を総括する。教員は現状の年金制度維持の難しさを説明し、より多くの人が納得できる制度を模索し続けることが大切であるとまとめる。
また、宿題(もしくは授業の残り時間)で年金制度に対する考え方の変化について生徒に振り返ってもらう。生徒は提出して、授業は終了する。

生徒は授業を通じて自身の考えがどのように変化したか、または何を重要だと感じたかを振り返り用のテキストふせんに記述する。これを再度「提出箱」に提出させることで、個々の学習の定着度や価値観の変容を確認する。